

「革新的新構造材料等技術開発」
第2期ステージゲート評価結果の確認方法について

「革新的新構造材料等技術開発のステージゲート評価結果(第2期)の確認」に対し、確認事項をとりまとめた上で、被評価者側に説明いただくこととして、下記案に対して平成30年4月9日(月)から4月20日(金)かけて各議員及び委員に対し照会を行いました。特段、追加、修正のご意見はございませんでした。

記

1 確認の視点の考え方

本件は、ステージゲート毎の確認であるため、確認の視点は、原則として、前回のステージゲート時の視点を踏襲するものとする。ただし、前回のステージゲート時において確認された事項であって、今回のステージゲート時に改めて確認する必要のないと考えられる項目については、大綱的指針の趣旨に基づく評価疲れの観点から再確認は行わないとする。また、前回のステージゲート時における指摘事項の対応及び内閣府 SIP、文科省元素戦略事項との連携体制については(別紙参照)、その連携状況について確認する。

2 確認方法

経済産業省におけるステージゲートの評価結果に対して、以下の点を留意しつつ妥当性について確認を行う。

(1) 目標および計画

・上位政策との関係、世界の経済動向や研究動向の変化等による設定目標や計画の見直し等。

(2) 研究開発マネジメントについて・マネジメントの実効性

・他分野への展開可能性の検討状況、新規研究課題がある場合はその対応等。

(3) その他

・内閣府 SIP、文科省元素戦略事項との連携状況。

3 前回指摘事項の対応状況の確認

第1期ステージゲート評価(平成28年10月21日)において改善すべき点として、指摘された以下に対する対応状況について確認を行う。

前回指摘事項

- ① コストに配慮した上で、設計や製造、あるいは、開発された材料の社会への波及効果などでの評価といった実用化を見すえた対応が必要
- ② 強度と伸び以外に実装に必要な材料特性や品質面などからの評価をすべき
- ③ マルチマテリアル化において、どの材料がどの部品に応用できるのかについて検討し、その上で各材料が要求される性能、品質、コストを満足したものとなっているのかを評価すべき
- ④ 接合技術についても、いかなる環境下で使用され、どのような物性が要求されるのかを明確にした上で、評価すべき

4 今後の予定

6月21日(木) 第126回評価専門調査会 経済産業省説明、質疑応答

6月22日(金)～7月30日(木) 審議結果のとりまとめ案提示、意見収集

7月31日(金) 第127回評価専門調査会 第2期ステージゲートの評価の確認報告書案の提示、審議

8月下旬頃 第2期ステージゲートの評価結果の確認報告書決定

5 これまでの経緯(参考)

平成25年3月38日 事前評価

平成25年10月25日 ISMA(新構造材料技術研究組合)設立

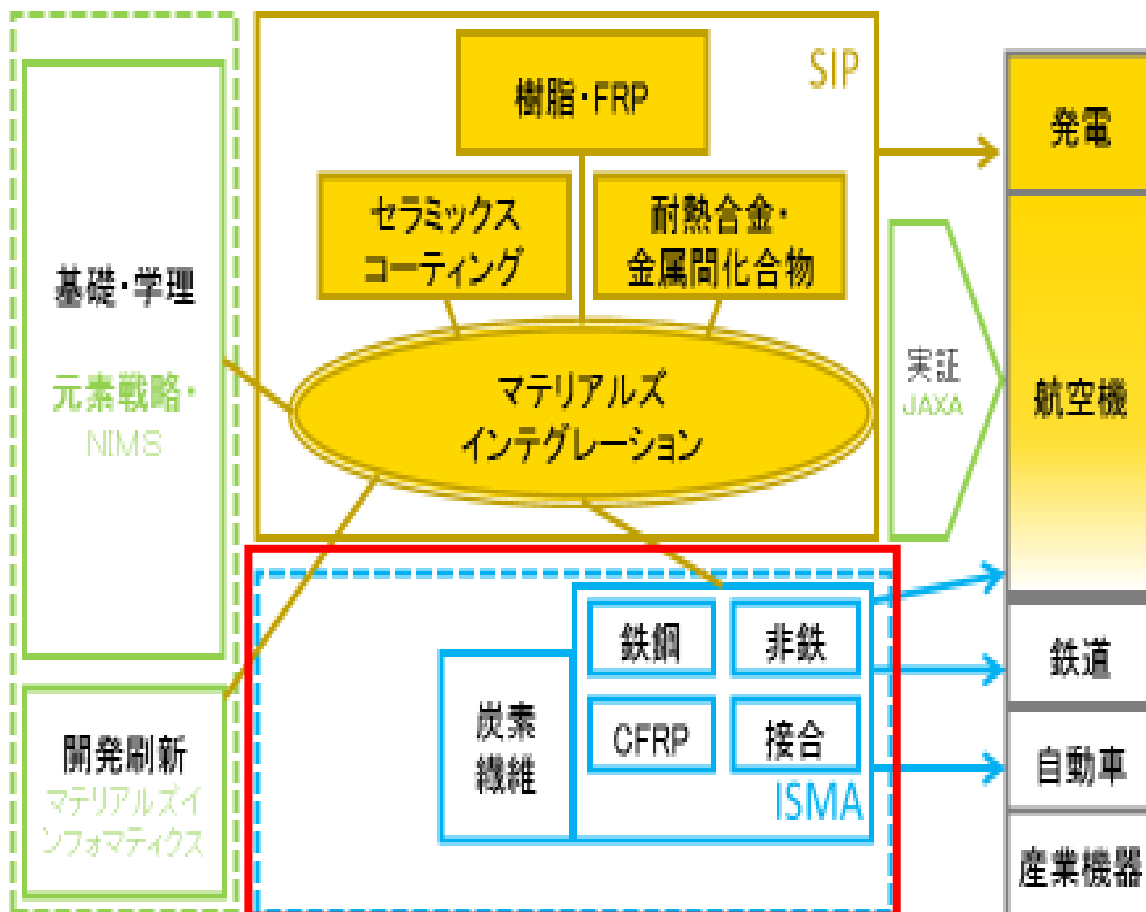
平成26年10月1日 SIP「革新的構造材料」がスタート

※SIP/ISMA の関係は別紙参照

平成26年11月12日 事前評価のフォローアップ

平成28年10月21日 第1期ステージゲート評価の確認

各省施策と連携し、**構造材料重要分野**を**基礎から社会実装**まで



↑ 評価対象

第1期ステージゲート評価の確認(平成28年10月21日)より抜粋

- ・NIMS 国立研究開発法人物質・材料研究機構
- ・SIP 総合科学技術・イノベーション会議が自らの司令塔機能を発揮して、府省の枠や旧来の分野の枠を超えたマネジメントに主導的な役割を果たすことを通じて、科学技術イノベーションを実現するために新たに創設するプログラム
- ・ISMA 新構造材料技術研究組合
- ・JAXA 国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構